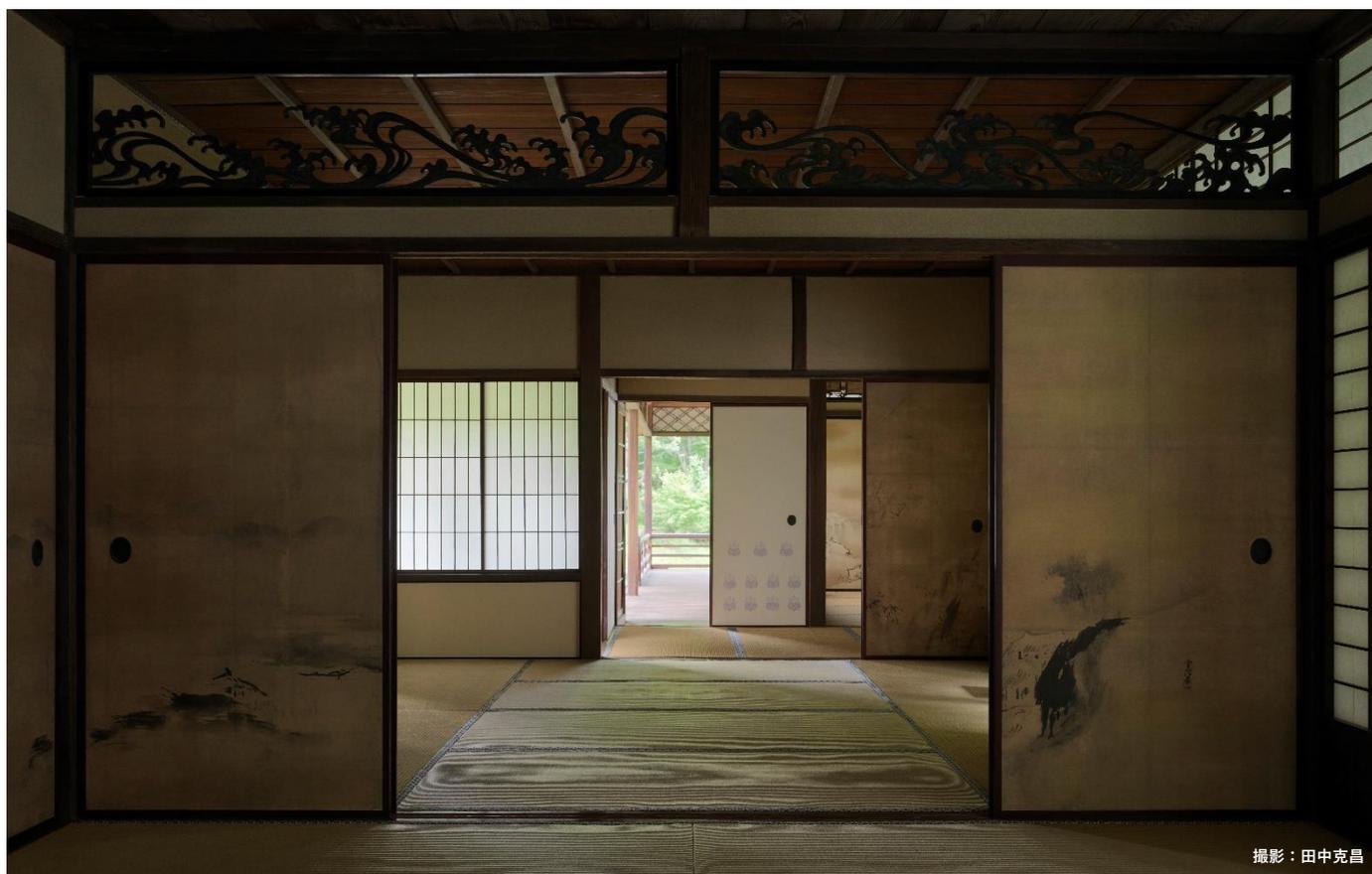

「臨春閣」 令和の大修理完了および三溪園完成 100 周年記念
重要文化財「臨春閣」特別公開と記念イベント開催！
通常非公開の建物内部を 2022 年 9 月 17 日(土)～25 日(日) 一般特別公開

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、重要文化財「臨春閣」の5年にわたる保存修理事業の完了および三溪園完成100周年を記念し、通常非公開である「臨春閣」の建物内部の一般特別公開（9月17日～25日）および公開記念イベントを開催します。

江戸時代に建てられた臨春閣は、三溪園の創設者・原三溪によって守り継がれた重要文化財建造物です。昭和の戦災を乗り越えたこの建物を、さらに末永く遺し伝えることを目指し、檜皮葺屋根（ひわだぶきやね）・柿葺屋根（こけらぶきやね）の補修を主目的とした保存修理工事と耐震診断・補強工事を実施しました。これだけの規模の修理は約30年ぶりとなり、平成30年度に開始した本事業は今年8月に完了の時をむかえます。

檜皮葺・柿葺屋根を持つこれほど大規模な建物が庭園の景色と調和し、美しい景観を作り出している姿を見ることができるのは、三溪園だけです。特別公開を機に、臨春閣の各所に凝らされた数寄屋造りの意匠のほか、建物内からのぞむ日本庭園の景観をお楽しみください。



原三溪は、当時は臨春閣を豊臣秀吉が建てた聚楽第の遺構として扱い、数寄屋風書院造りの旧態そのままの室内を残し、屋根の形状や素材の変更、玄関などの増築、三重塔の眺望を考えた棟の配置など、創意と工夫により、移築を完

了させました。このような臨春閣をはじめとする移築建築物などの配置が完了し、三溪園が完成したとされるのは1922年です。今年、三溪園は完成から100周年を迎えます。

■三溪園完成100周年・令和の大修理完了記念 臨春閣 特別公開

各部屋から三重塔や周辺の景観が存分に望める三溪園内苑の中心となる臨春閣。一般特別公開では、狩野派の絵師による障壁画や和歌が描かれた色紙をはめ込んだ欄間など、工夫が凝らされた内部の意匠の数々を見学通路からご覧いただけます。

日程 | 9月17日(土)～9月25日(日)

時間 | 10:00～16:30 *9月17日(土)のみ 13:00～

予約不要・最終入場 16:00

料金 | 無料 (入園料別途)

*混雑状況により、入場を制限させていただく場合がございます。



撮影：田中克昌

■特別公開の開始を飾る雅楽公演

臨春閣の第三屋にある「天楽の間」の欄間に、雅楽に使われる笙と篳篥（ひちりき）などが装飾として用いられていることにちなみ、雅楽公演をおこないます。次代へ伝えるための工事が終わり、輝きを取り戻した臨春閣の新たな姿を日本の伝統的な舞と演奏とともに楽しみください。

日程 | 9月17日(土) *小雨決行

時間 | 10:00～11:30

場所 | 臨春閣芝生広場 *座席をご用意しておりません

料金 | 無料 (入園料別途)

協力 | 横浜雅楽会

1984年「横浜雅楽同好会」として発足、1987年「横浜雅楽会」へ改称。元宮内庁式部職楽部や民間雅楽団体の第一線で活躍する実力者を講師に迎え、日本の伝統音楽の精髓である雅楽の理解や演奏技術の習得、演奏会や学校での雅楽教室を開催しながら、その振興と普及に努めている。



*写真はイメージです

■田中克昌写真展「あとさき - 臨春閣 -」

通りすがりに目にした印象的な光景、建築物としてのたたずまい。建築写真家である田中克昌さんが、あえて情緒的な表現で切り取った「原三溪が過ごした建物」としての臨春閣は、ある日の風景として捉えられた、映画のようなシーンの連続です。「あとさき」を手掛かりに、三溪から受け継がれた美を未来へ伝える、厳選した約15点の作品をご覧ください。

日程 | 9月8日(木)～10月23日(日)

時間 | 9:00～17:00 (入場は16:30まで)

場所 | 三溪記念館 第3展示室

料金 | 無料 (入園料別途)

協力 | 田中 克昌 (たなか かつまさ)

2005年 ニューヨーク州立大学 FIT 校卒

2007年 建築専門誌 GA のフォトグラファーとして国内外の建築を撮影

2017年 フリーランスとして独立

主なクライアント：隈研吾建築都市設計事務所、藤本壮介建築設計事務所等、現代建築家多数



受賞歴等：BRANDED SHORTS 2020 入選「One's Story」

■臨春閣入室特別見学ツアー

人気講師・藤井哲郎さんと巡る臨春閣入室特別見学ツアー

「和風建築・日本庭園の愛好者をふやす・施設をのこす・次世代につたえる」をライフワークとして、伝統建築と日本庭園の鑑賞方法を学ぶ講座を360回以上、バスツアー60回以上の講師をつとめている藤井哲郎さんをガイドに迎え、臨春閣一階に入室し数寄屋造りの意匠を間近でご覧いただくとともに、臨春閣と白雲邸の内庭をご案内します。

日程 | 10月9日(日)、10日(月・祝)

時間 | 9:30～・10:30～・13:30～・14:30～ 所要時間 約2時間

定員 | 各回15名

内容 | 三溪園学芸員と藤井哲郎さんのダブル解説による臨春閣入室見学および
三溪園学芸員の案内による臨春閣・白雲邸の内庭の特別見学

料金 | おひとり様5,000円(税込・入園料込)

申込 | 7/28より、オンラインサービス Peatix にて販売開始

<https://sankeien-rinshunkaku-teiokuichinyo.peatix.com>

協力 | 庭屋一如研究会主宰・藤井 哲郎 (ふじい てつろう)

JR 東日本 大人の休日倶楽部趣味の会・新潟日報カルチャースクール 講師

<https://www.facebook.com/teiokuichinyo/>



学芸員と巡る臨春閣入室「匠の技」特別見学ツアー

令和の大修理では、ひと目ではわからない職人技術の数々が織り込まれています。建築担当学芸員の案内により、二階を含む建物内部の特別見学をしながら工事を振り返り、工事のためにふるわれた「匠の技」に親しんでいただき、臨春閣を深く知ることができるツアーです。建物の見どころや、工事に際しての裏話も満載です。

日程 | 10月29日(土)

時間 | 10:30～・13:30～ 所要時間 約1時間半

定員 | 各回10名

内容 | 三溪園学芸員による臨春閣入室見学

料金 | おひとり様5,500円(税込・入園料込)

申込 | 7/28より、オンラインサービス Peatix にて販売開始

<https://sankeien-rinshunkaku-kenchiku.peatix.com>



撮影：田中克昌

<特別公開 / 公開特別イベント スケジュール>

- ・9月8日～ 田中克昌写真展「あとさき - 臨春閣 -」
- ・9月17日 特別公開の開始を飾る雅楽公演
- ・9月17日～ 「臨春閣」一般特別公開
- ・10月9日、10日 人気講師 藤井哲郎さんと巡る臨春閣入室特別見学ツアー
- ・10月29日 学芸員と巡る臨春閣入室「匠の技」特別見学ツアー

<プレス向け内覧会>

9月7日(水)にプレス向け内覧会を開催します。(臨春閣入室撮影可)
詳細については、8月8日(月)より、順次申込方法をご案内します。

◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって、1906年(明治39)5月1日に公開。175,000㎡に及ぶ園内には京都や鎌倉などから移築された歴史的に価値の高い建造物が巧みに配置されている。2007年(平成19)に国の名勝に指定。
(現在、重要文化財10棟・横浜市指定有形文化財3棟)

◆原三溪について

原 三溪(本名富太郎)(1868年/慶応4-1939年/昭和14)
岐阜県厚見郡佐波村(現在の岐阜県岐阜市柳津町)で代々に渡り、庄屋をつとめた青木家の長男として生まれる。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、1885年(明治18)東京専門学校(現在の早稲田大学)に入学、政治・法律を学ぶ。1888年(明治21)頃に跡見学校の助教師になり、1891年(明治24)、原善三郎の孫娘、屋寿と結婚し原家に入籍。原家の家業を継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収める。住まいを本牧・三之谷へ移すと古建築の移築を開始し、1906年(明治39)三溪園を無料開園。1923年(大正12)の関東大震災後は、荒廃した横浜の復興に力を注ぐ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されている。



◆施設概要

施設名	三溪園(さんけいえん)
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
電話番号	045-621-0635
入園料	大人 700円 / 小中学生 200円 横浜市内在住の65歳以上 200円(濱ともカードの提示が必要)
開園時間	9:00~17:00(最終入園16:30)
アクセス	JR根岸線根岸駅から市営バスで10分「本牧」下車 徒歩10分 横浜駅東口から市営バスで40分「三溪園入口」下車 徒歩5分
公式HP	www.sankeien.or.jp
Instagram	www.instagram.com/sankeien_garden
Twitter	twitter.com/HSankeien



本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 事業課 広報担当 岩本・加藤
TEL: 045-621-0635 / FAX: 045-621-6343
MAIL: iwamoto@sankeien.or.jp